

令和6年度第4回石巻市総合計画推進会議 会議録

■日 時 令和6年11月20日（水） 10時00分～11時30分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数25名に対して16名が出席しており会議は成立

2 開会あいさつ

(工藤副市長)

令和6年度第4回石巻市総合計画推進会議の開催に当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、日頃から本市の行政全般にわたり御理解と御協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、今年度の推進会議におきましては、総合計画の目標達成に向けて取り組んでおります各種施策の評価に加え、様々な視点から多くの御意見を頂戴しましたこと、改めて御礼と感謝を申し上げます。

本日は、令和5年度実績の評価結果及び今後の方向性について御報告をさせていただきますほか、委員の皆様から頂戴した御意見を踏まえ、前期基本計画をより一層推進していくため、一部指標及び目標値の見直しを行いましたので、併せて御説明をさせていただきます。

なお、現在策定作業を進めている後期基本計画においては、ロジックモデルを構築し、施策の達成状況をより明確に評価できる指標を検討しており、今後、総合計画審議会での審議等を経てまとめていくこととなりますので、来年度、推進会議の皆様にも、検討結果をお示しできればと考えております。

結びになりますが、本市の更なる発展に向け、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

(会長)

本年度の総合計画に関する進捗状況の評価について、これまで熱心に議論いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。本日の会議は、令和5年度実績の評価結果及び皆様からいただいた意見を振り返る場となります。皆様に年度内にもう一度お会いできたこと、心より嬉しく思っております。前回はグループ形式でしたが、本日は会議形式での開催です。前回のグループ討議において、心の距離を縮められたかと思っておりますので、本日も活発に議論いただければと思います。

今年度も、皆様から本当に量・質ともに大変充実した意見をいただきました。その総数447件に上っております。これほど多くの意見が集まること自体が、石巻に対する

委員の皆様の情熱の現れであり、このことこそが、石巻の誇りではないかと私は感じております。昨年度も申し上げましたが、いただいた意見から、私自身、様々な視点を学ばせていただきました。少数意見であっても重要な視点が含まれていることに改めて気づかされ、大変勉強になりました。また、市の事務局には、会議で出た意見を丁寧にとめていただいております、それぞれに係る回答も丁寧であると感じました。私も資料に目を通しましたが、情報の共有が図られれば、すでに解決できているものも多いのではないかと感じておりますので、なかなか目を通すことも一苦勞ではございますが、ぜひ意見をいただいたところを中心に目を通していただいて、御確認をいただきたいと思っております。

これらの御意見は、先ほど副市長からお話がありましたが、次年度の検証、また後期計画に生かされることになります。さらに1つ1つの意見を委員として私たち自身が咀嚼をして、理解を深めていくということも重要だと感じております。頂いた意見をもとに、市の取組への理解を一層深めて、市民の皆様と意見を交わして、ともに石巻の未来を担う市民の輪を広げていただければと願っております。

本日、今年度最後の会となりますが、より一層の深い議論を重ねて、外の寒さに負けない熱い議論を交わしていきたいと思っておりますので、どうぞ忌憚のない御意見をお願いしたいと思います。

短い時間になりますが、どうぞ本日もよろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 第2次石巻市総合計画及び地方創生関係交付金事業における令和5年度実績の評価結果について（資料1：政策企画課）

【質疑】

特になし

(2) 一部指標の変更及び目標値の見直しについて（資料2：政策企画課）

【質疑】

(委員)

5ページの財政調整基金取崩額について、取崩額が増えるという認識で間違いないでしょうか。私のイメージでは、財政調整基金の取崩しは少ないほど良いという認識なのですが、これを増やさざるを得ないということは、それだけ財政的に厳しいと、私共は理解をすべきと考えてよろしいでしょうか。

(政策企画課)

委員お話しのとおり、財政調整基金は市のいわゆる貯金であり、取崩額が大きくなってしまうと、財政的に厳しいということとなってしまいますので、残額を維持していくことを目指してまいります。

(委員)

令和5年度の実績評価について、内部評価と外部評価の全てが一致しておりますが、我々外部評価者が、内部評価にかなり誘導されているのではないかと感じます。

私もKPI等の評価指標について、書籍を購入し勉強しました。もともと内部評価は内部で目標値を設定するので、達成可能なところに照準を置きがちですが、それに我々も誘導されてしまっているのではないかと感じます。もちろん、非常に皆様が努力されていることは理解しています。

今後直していくのであれば、「イノベーション」が必要だと思います。

イノベーションについて、最近私が思うのが、「技術革新」という言葉が誤訳であったということです。工学者がイノベーションを日本語に訳した際に「技術革新」と名付けた。しかし、本来のイノベーションの意味は「新しいものの考え方」であります。

今後、我々も気を付けなくてはいけない、努力しなければいけないと思うのですが、評価について、改善的及び改良的な視点ではなく、改革的な視点で行わないといけないと思います。改善的・改良的な視点では、今までの延長上で新しい発想が出ず、何も変わらないと思います。

人口減少が進む中、同じペースでいってしまうと石巻は益々衰退してしまいます。これから反転攻勢を仕掛けるのであれば、発想を変えなければいけない。それが「イノベーション」であると、我々も心構えをしなければならないと思います。

今後も皆様と一緒に私も考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
(政策企画課)

昨年度、一昨年度の推進会議でも、目標値の設定根拠等が分かりにくいという意見をいただいておりますので、後期基本計画に向けてしっかりと検討し、本日委員の皆様からいただく意見も踏まえつつ、審議会の中でしっかりと議論をして参りたいと思います。もちろん、社会情勢の変化等、それらに対応していくことも、行政の役割であると考えております。

引き続きよろしくお願いいたします。

(会長)

委員お話しのとおり、全ての分野を網羅して、それぞれの課題を解決していくだけだと、おそらく今の延長上にしか物事が進まない、これを「フォーキャスティング」というのですが、確実に人口減少が進む中で非常に厳しい状況になると考えます。

よく地域の計画の中で「バックキャスティング」で考えろと言われております。これは10年後や20年後の目指す姿をまず掲げて、現在の街と比較してその差を埋めていくという手法ですが、そうすることで初めて、現在の延長上にはない街を作ることができるのではないかと感じます。

後期計画の策定においては、難しいことがあるのは承知しておりますが、バックキャスティング的な考え方をを用いて施策を検討していただくのが良いのかなと、委員からの意見を聞いて思いました。

(委員)

地域共生型社会の実現を目指すということで、第1章第1節の指標を「住民自治組織交付金を活用して活動した団体数」から「住民協議会による交流事業数」に変更したことはとても良いと思います。

超高齢化社会で高齢者が増えてきている状況ですが、その方々の抱える問題が複雑多岐に、そして複合的になってきております。今まで個別支援で解決できてきたことが解決できなくなっているの、地域支援と一体とならなければならないと考えており、その意味でも、この指標の変更は意義のあるものだと思います。

ひとつ私が申し上げたいのが、17ページ「復興創生期間に係る対応方針」のページに「孤立や引きこもりに限らず、実態の把握はとても困難」という記載がありますが、例えば地域のイベントに出てくる方は出てきますが、出てこない方は本当に出てこないの、実態の把握がとても困難です。そのような方を救いたいと、民生委員は足で稼いで見つけ出そうとしますが、「どこにどのような方がいるか」、「何歳以上の方はだれか」といった問合せを市民課にしても、個人情報保護法の関係で明かせないと言われてしまいます。そのようになってしまうと、最後命を落とした時に初めて見つかることになりますが、それではもう遅いのです。民生委員等社会福祉に携わるものは守秘義務がありますので、そこは信じていただいて、どこにどのような人がいるかといった情報提供について、柔軟に対応いただきたく思います。

(政策企画課)

住民自治組織について、市内で16団体の設置を目指して取り組んでおりますが、来年度中には全ての地区で設立する方向で調整させていただいております。

住民自治組織の活動に対し補助金を交付しているのですが、これまでの指標はなにに取組を1つでも行えば1カウントとされるものでございましたが、委員からお話のありましたとおり、コミュニティ活動が希薄化する中、1回やれば良いではなく、その回数も増やしていくことが重要であると考え、今回変更させていただくものでございます。引き続きしっかり対応していきたいと考えております。

復興創生期間に係る御意見について、被災者の心のケアについては引き続きしっかりと対応して参りますが、やはり超高齢社会の中で、共生社会を確立していくにあたっては、しっかり相談できる体制を整備する等が非常に重要であると認識しておりますので、頂戴した意見について、福祉関係部門とも共有させていただきたいと思います。

(委員)

問題を抱える方を解決に導くには、地域の組織で動くのは難しいので、タスクフォースのような形で、何か問題があったら関連する方々が集まって、解決したら解散する。それを積み重ねていくことが重要なのではないかと考えます。そのような動きが見えれば、「町内は色々動いてくれた」と評価も変わってくると思います。

また、タスクフォースの形式で実施すれば、「あそこではあのような方法で解決したからやってみよう」というような横展開も期待できると思います。

(委員)

基準値設定に関して、そのプロセスに我々委員が関わるということはできないのでしょうか。会議に参加して毎回感じるのは、最初に案として提示された基準値の中でしか議論できないということです。

例えば、第2章第2節「持続可能な社会を目指すごみの減量化と資源循環の推進」について、分別回収を推進することが良いことだとされ、その方向でずっと進んでおりますが、私は反対であり、鉄やアルミはリサイクルするべきだと思いますが、プラスチックは燃えるゴミと一緒に処理した方が環境負荷は少ないと考えております。こういった意見が、現在は反映されない状況となっております。

回収して分別することは全て良いことだ、全てのごみは分別して回収したほうが環境負荷を減らせるという前提のもとに議論されておりますが、別の視点でこのような見方もありますよという議論も、現実を変えていくには必要であると思います。

(政策企画課)

総合計画審議会において、後期基本計画の基準値の設定などを含め、今後議論していくこととなります。

前期計画の評価をお願いしている推進会議の委員の皆様からこのような意見がありましたということを、審議会においてもお話しをさせていただきたいと思います。

(委員)

やはりプロセスとしてあくまで我々の意見は参考と考えてよろしいのでしょうか。

例えば、審議会に陪席して少々意見を言わせていただくこと等はできないのでしょうか。

(政策企画課)

審議会の委員の方から御意見をいただくこととなります。そのため、調整をいただき、審議会委員の方から御発言をいただければと思います。

(委員)

数年間委員をやらせていただいておりますが、1番長いときは2時間の会議で1時間40分程度説明がありました。これだけ立派な業務を行い、資料を作ってくださったうえで内部評価をしていただいているので、各節数分程度の説明では内容の全体が分からず、恐らく外部評価は変わらないと思います。

今年はグループ討議がありました、これはすごく良かったと思います。来年からの話ですが、この場では様々な意見が出るので、ぜひ、これから市を盛り上げていく若い職員にも参加していただきたく思います。この推進会議には優秀な委員の方が多くおられます。市役所の若い職員も優秀です。そのような方が様々な意見を聞くことは、今後の石巻のためにも重要であると感じております。

移住定住の観点で1つ意見をお話しすると、私は農業を営んでおりますが、現在、農地は荒れてしまい人が来ないという状況です。ここに、1人2人移住者が来ても何もできません。そのため、外国人の方を含め、ある程度集団で事業を起こしてもらうなどの取組も大切になってくるのかなと思います。

(政策企画課)

市の職員に関わらず、若い方の意見は非常に重要であると考えております。そういった取組も今年度積極的に進めさせていただいておりますほか、政策企画課においても、若い方から意見をいただける「政策コンテスト」を開催しております。

若い職員の推進会議への出席について、時間のある職員は同席するといった対応が出来れば良いかなとお話しを聞いて思いました。検討したいと思います。

(会長)

委員の方より、様々な意見、提案があると思います。それを生の声として若手の職員にも聞いていただければ良いと思います。可能であれば、グループ討議の中に1人2人入っていただけると、すごく議論が活発になり、いつかどこかで反映されていくのかという期待もあります。

御検討いただければと思います。

(委員)

基本計画第4章第1節の細節「中心市街地活性化を推進する」について、いしのまき元気いちばや石ノ森萬画館等たくさんの人にお越しいただきすごく嬉しいです。目標値達成とのことですが、引き続き継続的に中心市街地のことも見ていただきたいと思います。その中心市街地ですが、週末になるとアイトピア通り周辺がすごく渋滞します。信号の歩者分離が本当に必要なのかと思うくらい渋滞することもあるので、今後検討していただければと思います。

学校に関することについて、昨年からコミュニティスクールが始まり、学校と地域と家庭が一体となって子どもを守っていくという方向で話を進めておりますが、コミュニティスクール自体の周知徹底がなされておらず、一部の委員のみの参加となっている気がします。町内会の方々やたくさんの方々を交えて、委員会会議以外の会議を設けて、「この地域にはこういう危険な箇所がある」「この地域にはこういう人が住んでいる」という見守りの部分を含め、強化をしていければ良いのではないかと考えておりました。

余談ですが、学校の先生方と話していると、石巻市に住まないで東松島市にすんでいの方が結構いるのだなと感じました。先生方含め、石巻市に関わる方で東松島市に住んでおられる方がいるのだなということをよく感じます。もちろん、御家庭の事情等様々なことがあるので一概には言えませんが、「石巻以外に住む魅力ってなにかあるのか」「どうして石巻に定住してくれないのか」という疑問があったので、機会があれば調査していただければと思います。

(政策企画課)

中心市街地活性化については、引き続き皆様と一緒に盛り上げていければと考えております。本市は古い歴史があって、やはりかわみなど、中心部から発展してきた街だと思えます。以前のような活気を取り戻せるように、現在第4期中心市街地活性化計画の策定に向け取り組んでおります。

コミュニティスクールについては、只今委員から頂いた意見を教育委員会に伝えたいと思います。

職員の居住地については、委員お話しのとおり本市の職員が東松島市に住んでいるパターンと、その逆のパターンも当然あり得ます。現在石巻市は、東松島市及び女川町と定住自立圏共生ビジョンを結んでおり、この2市1町の圏域については互いに経済圏も同一であるという意識もございますので、その辺は圏域として捉えていく考え方も必要ではないかと考えております。

4 その他

- ・実績値の修正について
- ・令和6年度市民満足度調査結果について

5 閉会

(副会長)

皆様お疲れさまでした。

今年度は4回会議が開催されましたが、委員の皆様の熱心な議論の末、たくさんの御意見が出されました。私は他の自治体のことは分かりませんが、これだけの意見を出す総合計画推進会議は、他にはないのではないかと感じております。それに対し、事務局が丁寧に集計をして、庁内関係課と連携を図りながら回答をしているということも、前向きに捉えている証拠ではないかと感じており、本当に感謝しております。

ただし、どんなに努力しても、石巻が良くならなければ意味がありません。石巻をより良くしていくための総合計画ですので、本当に石巻の向かう方向はどこなのか。「ひとりひとりが 多彩に煌めき 共に歩むまち」というスローガンがありますが、ひとりひとりが多彩に煌めくの「多彩」とは何か、「煌めく」というのはどういう方向に行けば良いのか。「共に歩む」とはどういうことなのか。それらをしっかりと踏まえ、方向を見据え、その方向に基づいて指標を作っていくことが大切であると考えます。

今後も、委員の皆様には貴重な意見、それぞれの立場からの想いをたくさん出していただければと考えて思います。本日はありがとうございました。

石巻市総合計画推進会議委員名簿

No.	氏 人	所 属	備 考
1	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	欠席
2	阿部 貞子	牡鹿地域まちづくり委員会	出席
3	姥浦 道生	東北大学	欠席
4	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
5	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会	欠席
6	大森 憲市	石巻市PTA協議会	出席
7	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
8	木村 亜梨沙	一般社団法人 石巻青年会議所	出席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	副会長 出席
10	木村 美保子	特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	欠席
11	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
12	近藤 浩之	いしのまき農業協同組合	出席
13	齋藤 義樹	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	出席
14	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会	欠席
15	庄子 真岐	石巻専修大学	会長 出席
16	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
17	高橋 京子	石巻文化協会	出席
18	千葉 新一	河南地域まちづくり委員会	欠席
19	千葉 照彦	桃生地域まちづくり委員会	出席
20	野呂 拓生	東北福祉大学	欠席
21	花岡 徹	石巻金融団	欠席
22	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	出席
23	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会	欠席
24	三浦 悠	株式会社 街づくりまんぼう	出席
25	山内 隆夫	河北地域まちづくり委員会	出席

オブザーバー

1	斉藤 喜浩	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	出席
2	石川 佳洋	宮城県東部地方振興事務所	代理出席
3	鏑木 祐人	総務部総務課 法制企画官	出席

令和6年11月20日現在（敬称略）